



Compas

令和7年6月27日発行

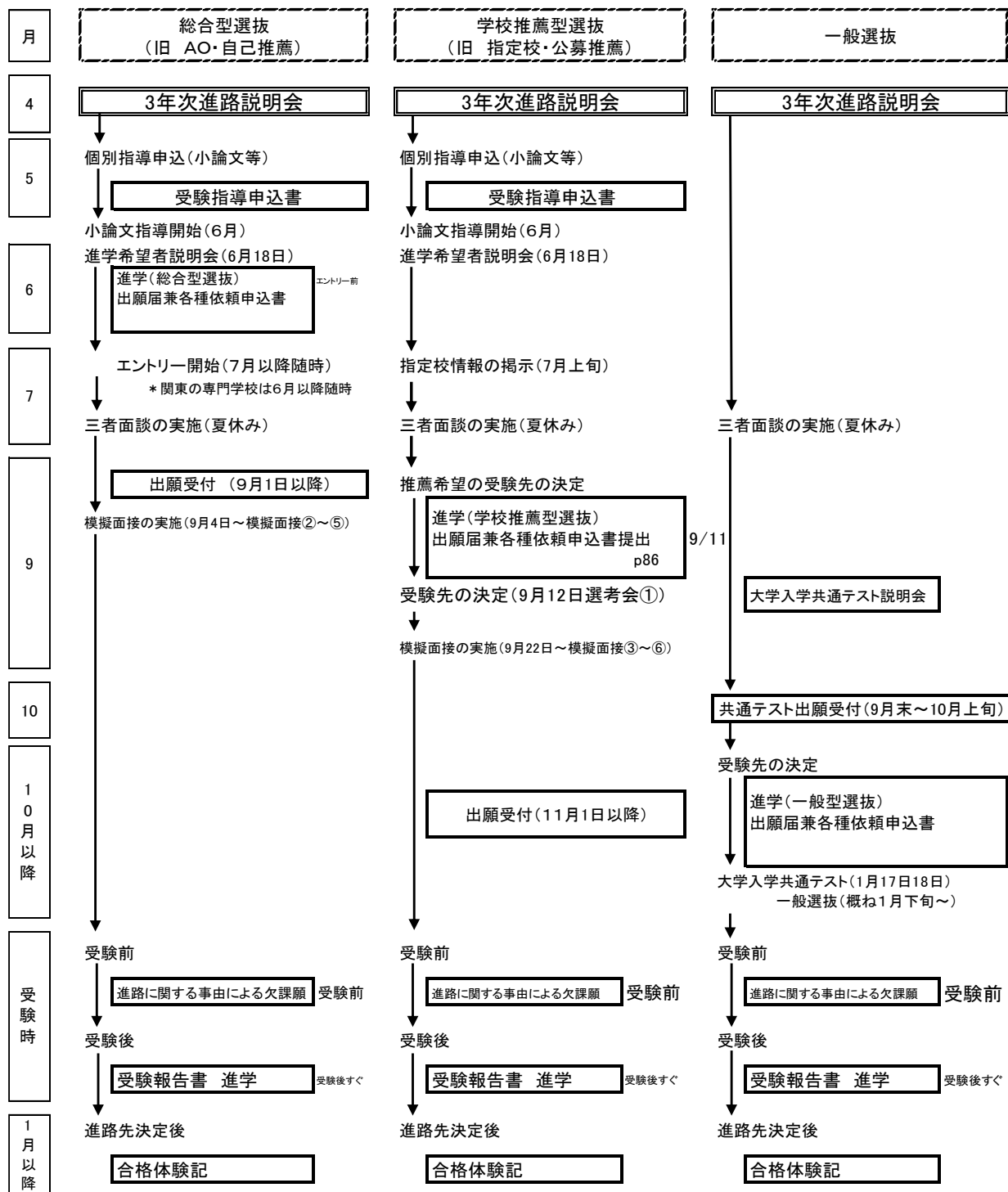
進路だより 第3号

相馬総合高等学校 進路指導部



先週の6月18日(水)に、3年次生を対象に就職希望者説明会と進学希望者説明会を同時開催しました。
『進路だより』本号は今年度の進学に関する日程と、多様な選抜方法について特集します。

令和7年度進学に関する日程



大学（専門学校）の選抜方法について

大学、専門学校の入試は大きく分けると3つの選抜方法がある。

（１）学校選抜型選抜

これにも2種類ある。

- ① 指定校推薦 本校は伝統校であることから、特別に本校を指定して、大学（専門学校）側が本校に推薦を要請するものである。大学（専門学校）側の事情や卒業生の実績によって変動がある。大学（専門学校）が指定する人数以上の志願者が出た場合には、学校内で選抜が行われる。
成績や欠席日数等に条件があるが、競争選抜ではないので特別なことがなければ、合格する。
- ② 公募制推薦 文字通り、大学（専門学校）の出願資格と条件を満たせば出願可能である。ただし、競争選抜であるので合格の保証はない。

注意 いずれも校内選考（推薦会議）によって推薦が決定される。その際に、以下の『校内推薦基準』があり、それに満たない者は推薦されない。

- i 3年間で単位修得できない（見込みの）科目のある者。
- ii 欠席日数が3年間で20日を超える者（欠席理由によっては審議される）。
- iii 学校生活の中で不適切な行動が複数回あった者。

また、校内選考において考慮される点は、平均評定、部活動・生徒会等の活動実績、人物・適性、指定模擬試験の受験状況である。なお、校内選考で推薦が認められた生徒は原則として辞退は認められない。

（２）総合型選抜

かつて「AO・自己推薦」と呼ばれていた入試選抜である。一部の専門学校ではAO入試という名称をつかっているケースもある。

大学（専門学校）が求める学生を選抜する入試方式。受験生の学力だけではなく、学習意欲、個性、適性などを総合的に評価して選抜する。したがって、選抜方法は、書類審査や面接に加えて、知識や思考力・表現力・コミュニケーション能力などを多面的に評価するために、多様な選抜方法が採用されている。

注意 併願を認める大学（専門学校）もある。

（３）一般選抜

大きくわけて3種類ある。

- ① 一般選抜（私立大学） 大学（専門学校）の指定する教科科目の学力試験の成績で選抜を行うもの。
- ② 大学入学共通テスト利用選抜（私立大学） 大学入学共通テストを受験してその成績を利用して選抜を行うもの。
- ③ 一般選抜（国公立大学） 大学入学共通テストと、大学が個別に行う2次試験の成績で選抜を行う。

注意 私立大学の一般選抜は併願が可能である。国公立大の一般選抜は前期・中期・後期それぞれ1校に出願が可能。ただし、前期に合格した場合は前期出願校に入学しなければならないので、第一志望校は前期でなければならない。

◆◆ コミュニケーション能力 ◆◆

「コミュニケーション能力」については、生徒諸君を前にして進路指導主事が再三にわたり強調していました。社会で求められているのは、まさしく「コミュニケーション能力」だからです。企業にも公務員にも、面接試験があります。そのねらいは受験生のコミュニケーション能力を見るためなのです。例えば福島県職員の第二次試験には、個別面接が2回あり集団討論もあります。

この社会には答えのあらかじめ決められた問題というものはありません。また個人によって解決可能な問題などほとんどありません。諸君は企業や官公庁という組織に入り、そこにいる多くの「他者」たちとともに問題に取り組み解決を図らねばなりません。「他者」と書きましたが、コミュニケーションとは＜仲間とおしゃべり＞ではなく＜他者との対話＞です。社会は多様性に満ちています。多様な価値観や考えを持つ「他者」とのコミュニケーションが、問題解決の鍵（キー）になるのです。実は、コミュニケーション能力が重視されるのは大学等の上級学校においても同じです。（次号に続く）